



東洋水産から株主の皆様へ

## 第58期 事業報告書

2005年4月1日～2006年3月31日



**東洋水産株式会社**

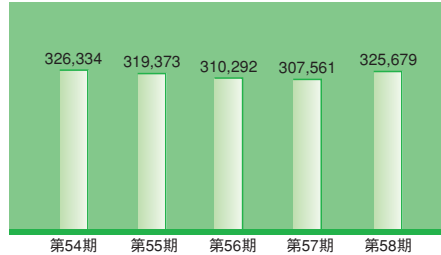
証券コード：2875



## 連結決算ハイライト

売上高 **325,679** 百万円

売上高の推移 (百万円)



営業利益 **19,935** 百万円

営業利益の推移 (百万円)



経常利益 **21,151** 百万円

経常利益の推移 (百万円)



代表取締役社長  
堤 殷

株主の皆様におかれましては、日頃よりご支援とご厚情を賜り心から感謝申し上げます。

さて、当社第58期(2006年3月期)の決算を終えましたので、営業の概況をご報告申し上げます。

厳しい経営環境の中、当社グループはさらなる発展のために競争力を強化し、スピードを持って改革を進めてまいります。

そしてお客様から支持と信頼を得られる企業となり、企業価値を高め、株主利益の増大を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 当期の業績について

当連結会計年度におけるわが国経済は、企業収益の改善を背景とした設備投資の増加や雇用・所得環境の改善により景気は緩やかな回復傾向が見られましたが、原油価格の高止まりによる今後の景気動向に対する不透明感もぬぐいきれない状況が続いております。

当食品業界においては、依然として商品単価の下落が続き、販売競争はますます厳しくなっており、定率減税の縮小や社会保険料の引き上げなどによる心理的な影響もあり、消費意欲の本格的な回復には至りませんでした。また米国で発生したBSE問題の再燃などにより消費者の食の安全面に対する厳しさは引き続き増しており、当業界は今まで以上に品質管理の強化への対応を求められております。

そのような状況の中、当社は、「食を通じて社会に貢献する」「お客様に安全で安心な食品とサービスを提供する」ことに取り組んでまいりました。当連結会計年度に総合研究所を開設し設備を充実させさらなる開発力の強化、品質の向上を図ってまいりました。また厳しい販売競争に対応するため、より一層の製造コスト削減ならびに積極的な営業活動を推進してまいりました。

以上の結果、当期の業績は、連結売上高は前期に比べ5.9%の増収の3,256億79百万円、連結営業利益は前期に比べ1.5%減益の199億35百万円、連結経常利益は前期に比べ4.4%の増益の211億51百万円、連結当期純利益は前期に比べ15.4%の増益の138億13百万円となりました。

## 次期の見通し

次期（2007年3月期）の見通しにつきましては、わが国の経済情勢は、消費及び設備投資は引き続き増加し民間需要中心の景

気回復が続くと想定しております。しかしながら、原油価格の高止まりや急激な金利上昇による資金調達コストの負担増などによる企業収益圧迫リスクに加え、心理的な影響が個人消費の抑制につながることも懸念されます。当業界におきましても長期化しているデフレ圧力は後退しているものの、競争激化から販売価格の低価格化傾向は続き、厳しい市場環境が継続するものと思われる。また食の安全・安心など企業の社会的責任がますます求められていくものと考えております。そのような状況の中、当社は消費者ニーズを捉えるためマーケティングを強化し市場の求める商品の開発に努め、チャンネル別・エリア別に商品を提案していきたいと考えております。さらに、商品別に販売戦略を立案し積極的な営業活動を実施いたしますが、原油価格高騰に伴う原材料費の上昇が収益へ与える影響が大きくなるものと予想され、当期とほぼ同額の経常利益の達成を目指しております。しかしながら、今後とも費用面でもより厳しい販売競争に対応するため、物流・生産体制の再構築を進め徹底したコストの削減など費用の効率的な活用に注力していく所存であります。

以上により、通期の連結売上高は3,300億円、連結経常利益は212億円、連結当期純利益は118億円を見込んでおります。

なお、対米ドルの円換算為替レートは決算日レートの117.48円で想定いたしております。

2006年6月

次期見込	
連結売上高 ▶	330,000百万円
連結経常利益 ▶	21,200百万円
連結当期純利益 ▶	11,800百万円



## 品質保証体制について

当社の品質保証体制については、品質に関する法令・規制要求事項の順守は当然ながら、原材料から製造、流通までの全社組織での品質保証体制の強化、向上による安全を確保し、ISO9001システムを活用しながら継続的な改善活動を実施しています。

品質保証部門においては、生産工場への定期的な衛生監査をはじめ、様々な品質管理上の支援を行っています。また、品質に関するお客様からのお問い合わせについては、苦情・ご意見・ご要望を関係部署にフィードバックするとともに、原材料や製品に

おける安全、安心に関する情報を常に入手し、適切に対応しています。

昨今、話題になっている残留農薬や抗菌剤等の問題についても、総合研究所内に最新の分析機器を導入し、訓練されたスタッフにより安全性の検査等を行い、原材料の手当先まで管理状況の把握に努めています。また、遺伝子組み換え物質や食中毒菌の検査についても、最新の検査手法を確立し、迅速な検査体制を整えています。







# 商品ラインアップ

## 即席麺類

### 〈和風麺シリーズ〉



「赤いきつねうどん」



「緑のたまき天そば」



「黒い豚カレーうどん」



「あつあつ豚汁うどん」

お馴染みの、和風麺シリーズは、ますますラインアップも充実して、ご好評を頂いています。大盛りタイプや豆カップ、地域の嗜好に合わせた商品など、お客様のご要望に合わせたきめ細かな対応を行っています。

### 〈袋麺〉



「昔ながらの中華そばしょうゆ」



「昔ながらのみそラーメン」



「昔ながらのとんこつラーメン」

発売以来、順調に売上を伸ばしているノンフライ袋麺シリーズ。麺は北海道小麦100%使用。だしの効いたスープが麺のおいしさを更に引き立てます。

### 〈ワンタン〉



なめらかな食感が自慢のワンタンしょうゆ味。お夜食やランチのサイドメニューとして好評です。

## 生麺

### 〈焼きそば〉



「焼きそば3人前」



「塩焼きそば3人前」



「ナポリタン焼きそば3人前」

発売から30年以上愛され続けるマルちゃん“焼きそば3人前”。2006年2月より“ナポリタン焼きそば3人前”を加え、シリーズ品を充実させました。

### 〈ラーメン〉



「北の味わい醤油とんこつ」



「北の味わい味噌とんこつ」



「北の味わいぎるラーメン」

首都圏を中心に生ラーメンの主力品に成長した“北の味わい”シリーズ。春夏期の“ぎるラーメン”も含め年間を通じてご好評頂いています。

## チルド食品



「えびシュウマイ」



「かにシュウマイ」



「黒豚シュウマイ」

好調に推移している“えびシュウマイ”“かにシュウマイ”。2005年8月より“黒豚シュウマイ”（西日本エリア）を加えてシリーズ品を充実させました。

## 加工食品

### 〈米飯〉



「あったかごはん」



「あったか赤飯」

レンジで簡単、いつでも炊きたて「ごはん」と「赤飯」。

### 〈スープ〉



「もずくスープ5P」



「めかぶスープ5P」



「カップ入りもずくスープ」

健康ブームによって順調に推移しているフリーズドライスープ。

### 〈魚肉ソーセージ〉



85gx3本

「栄養機能」と「安心・安全」を兼ね備えたソーセージ。

## 特集 麺づくり

# 妥協しないこだわりで、ノンフライ麺の市場を活性化。 ロングセラー「麺づくり」は、“美味しさ”をとことん追求！

**喉** ごしのいい麺、ツルツルとした食感、コシのある確かな食べ応え…。原料やスープはもちろん、“どこにも負けない美味しい麺へのこだわり”で、「麺づくり」シリーズは誕生から14年を数えるロングセラー商品となりました。どんぶりタイプ・ノンフライ麺の分野で、市場の活性化を果たした「麺づくり」は、皆様に愛されるブランドとして、これからも成長していきます。

## 美味しい麺へのこだわり

「麺づくり」は、原料の配合から練り、蒸煮、乾燥まで、一つひとつの、工程に徹底したこだわりをもって開発された商品です。たとえば原料となる小麦粉の厳選はもちろん、かんすい、水、食塩などの配分、小麦粉と加水調整液を混ぜ合わせる〔混合・練り込み〕、麺のコシを決定づける圧延にも、「麺づくり」ならではの厳密な計算と調整がなされています。さらに温度・湿度が最適な状態にコントロールされた乾燥室で、じっくり時間をかけて乾燥させることで、“より自然な生麺の感覚”を醸しだしています。

## 「フライ麺」と「ノンフライ麺」の違い

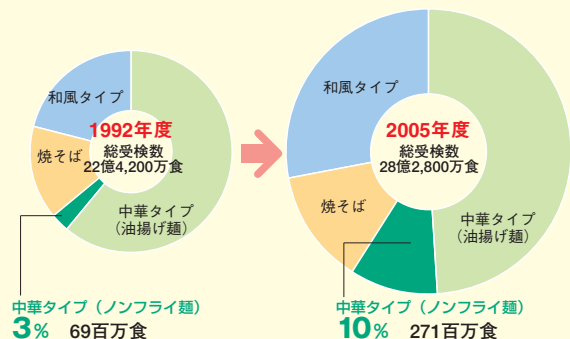
即席麺の種類で「フライ麺」は、通常140℃～150℃の揚げ油に麺を入れ、1分～2分という短い時間でいっきに麺を揚げます。生地段階で30%～40%あった水分が、ここで3%～6%になります。また「ノンフライ麺」は、揚げ油を用いず、温度・湿度の調整によって時間をかけて乾燥させます。微妙にコントロールされた熱風を用い、時間をかけて乾燥させます。これにより、しっとりとした食感に上げることができます。乾燥処理後は、冷風を吹き付けて冷ましていきます。

## 市場データ

**中華タイプノンフライ麺の需要が大きく拡大。  
「麺づくり」は、着実に成長をつづけています。**

2005年度の「カップ麺JAS受検数」(右グラフ①)で、「麺づくり」が属する中華タイプノンフライ麺は、市場全体の10%(271百万食)を占めています。「麺づくり」が発売された1992年度当時と比較すると、JAS受検数・構成比共に大きく拡大を遂げました。そのような中、「麺づくり」は着実に成長を重ねた結果(右グラフ②「2005年度155円中華タイプノンフライカップ麺構成比」)、中華タイプノンフライカップ麺の代表的ブランドになっています。今後もノンフライカップ麺市場は、健康志向などの消費トレンドを受け、需要の拡大が期待されます。「麺づくり」も市場の伸びとともに一層の成長をつづけていきます。

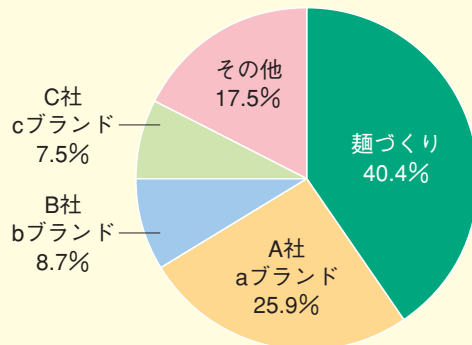
■グラフ① カップ麺JAS受検数



JAS受検とは、農林水産省が定めるJAS規格に適合しているかどうかの検査を受けることで、この受検数の増減で、商品カテゴリーのトレンドをみることができます。

■グラフ② 2005年度155円中華タイプノンフライカップ麺構成比

(株) インテージ 2004MF1データより  
全国全業態・販売容量 2005年4月~2006年3月



## こだわりは麺の太さ・切り刃にも…

●**麺の形**：麺の形は、「めん帯」（圧延された帯状の麺）を、一本一本の麺に切り出す時に使われる、「切り刃」の種類によって決まります。「切り刃」には、丸い断面の麺を作る「丸刃」と四角い断面の麺を作る「角刃」があり、食べたときの食感に大きく影響します。

●**麺の太さ**：麺の太さは、「20番」、「22番」といった番号で呼ばれますが、これは、幅30mmあたりの「めん帯」から、何本の麺を切り出すかによって番号がつけられます。切り刃「18番」では18本、「22番」では22本となり、番号が大きくなるほど、一本当りの麺の幅は細くなります。



「麺づくり鶏ガラ醤油」

【麺】 すっきりしながらもコクのある鶏ガラ醤油スープがよく絡む細麺です。

● 20番丸刃

【スープ】 鶏ガラと豚骨をベースに、煮干し・鰹・昆布の和風だしを加えた、味わいの本格醤油スープ。

【かやく】 メンマ、ナルト、焼きのり2枚、ねぎ



「麺づくり合わせ味噌」

【麺】 味わい深い合わせ味噌スープがよく絡む太麺です。

● 18番角刃

【スープ】 ポークとチキンのエキスをベースに赤味噌と白味噌を合わせ、醤油と鰹の旨みを使った味わい深いスープ。

【かやく】 炒めキャベツ、コーン、たまねぎ、にんじん、ねぎ



「麺づくり濃厚豚骨」

【麺】 香辛料を効かせた濃厚豚骨スープがよく絡む極細麺です。

● 22番丸刃

【スープ】 じっくり炊き出した豚骨エキスをベースに、ガーリック・胡麻を効かせた濃厚豚骨スープ。

【かやく】 焼豚、いりごま、きくらげ、ねぎ



「麺づくり鶏だし塩」

【麺】 ダシの旨みでコクを出した鶏だし塩スープがよく絡む細麺です。

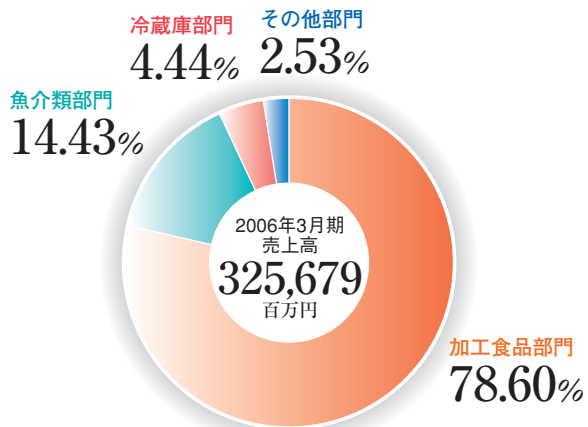
● 20番丸刃

【スープ】 チキンをベースにたまねぎと備前岡山のにがり塩を加え、昆布と鰹の旨みで豊かなコクを出した塩味スープ。

【かやく】 焼豚、メンマ、ねぎ、すりごま、粗挽唐辛子

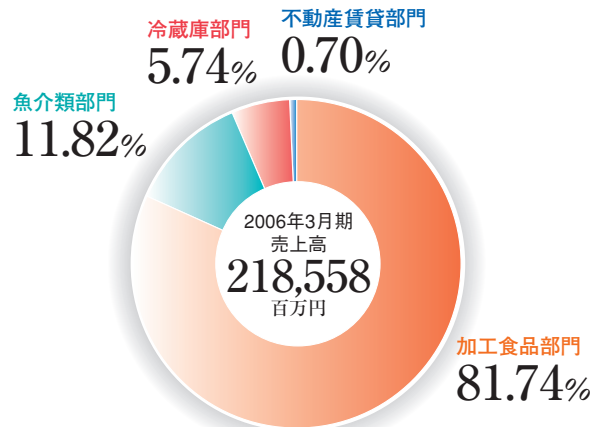


## 連結売上高構成比



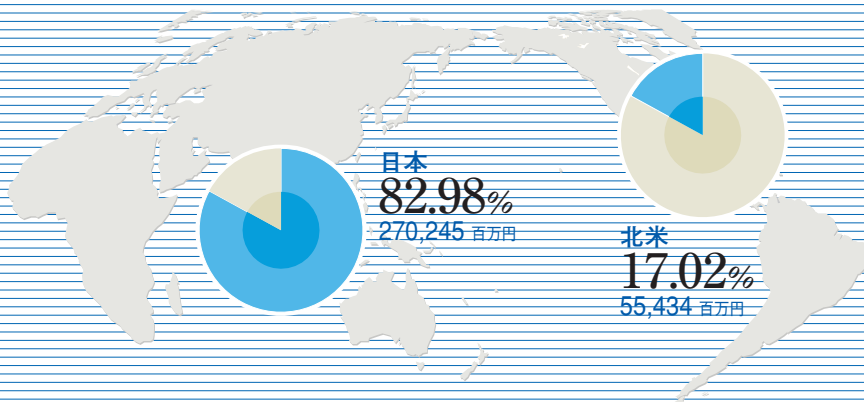
## 単体売上高構成比

〈ご参考〉



## 所在地別売上高

日本国内は、加工食品部門が順調に推移し売上高は2,702億45百万円となりました。北米は即席麺事業が引き続き堅調に推移しており、売上高は554億34百万円となりました。





## 加工食品部門

売上高  
**256,002** 百万円

加工食品部門の主要事業である国内即席麺事業のうちカップ麺においては主力商品である「赤いきつねうどん」「緑のためき天そば」をはじめとして「あつあつ豚汁うどん」や新製品「山菜乱切りそば」などの和風麺が大きく売上を伸ばしたほか、ノンフライ麺の主力品である「麺づくり」も昨年10月に実施した容器形態などのグレードアップ以降好調に推移し売上が伸長しました。コンビニエンスストア向け商品も大型縦カップ商品を中心に安定した売れ行きを示し、カップ麺全体では増収となりました。

袋麺においては、主力である「昔ながらシリーズ」「屋台十八番シリーズ」が順調に推移し、

袋麺全体では増収となりました。またワンタン類も堅調に推移した結果、即席麺事業全体では増収となりました。

生麺事業の売上高は、年間を通じ季節に即した寒暖差のはっきりした気候に加え、新製品・リニューアル品の好調により全体で前年を上回る実績となりました。

冷凍食品事業の売上高は、冷凍麺及び業務用冷凍調理品は順調に推移しましたが、冷凍野菜が減収となり全体では前年並みの実績となりました。

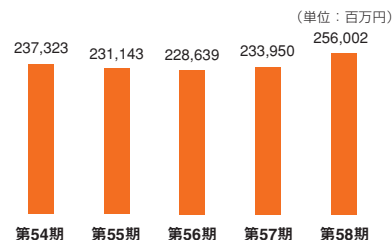
米飯事業の売上高は、無菌米飯で「あったかごはん」を、レトルト米飯で「あったか赤飯」を中心に販売促進を強化し、米飯市場全体の伸びを上回る実績となりました。

その他加工食品において、スープ事業ではカップ入りスープ市場の拡大の中、「素材のチカラ」シリーズとして「もずく・めかぶ・野菜たまご」のカップ入りスープを新たにコンビニエンスストア向けに導入することが出来、売上増

となりました。以上の結果、加工食品部門の国内売上高は総じて順調に推移しました。

また海外売上高は、米国の即席麺事業が引き続き堅調に推移しました。

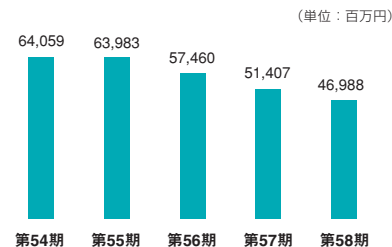
その結果、加工食品部門全体の売上高は、前連結会計年度に比べ9.4%の増収の2,560億2百万円、営業利益は原材料費の上昇があったもの、販売数量の増加や製造コストの削減などにより前連結会計年度に比べ2.6%増益の176億30百万円となりました。



## 魚介類部門

売上高  
**46,988** 百万円

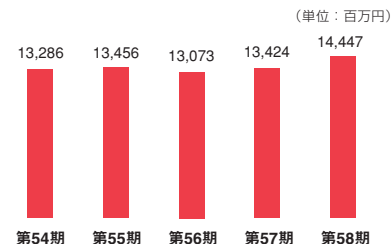
魚介類部門は、円安及び原油価格高騰の影響を受け原料価格が上昇したことに伴い水産市況が低迷し取引高が減少した結果、売上高は前連結会計年度に比べ8.6%の減収の469億88百万円、営業利益は魚卵・鮭鱒などの付加価値の高い加工品は微減にとどまりましたが、原料相場が急騰した鯖製品、不漁により取引高が減少したイカ製品の利益が減少したことにより前連結会計年度に比べ65.7%減益の4億68百万円となりました。



## 冷蔵庫部門

売上高  
**14,447** 百万円

冷蔵庫部門は、荷動きの鈍化により貨物の回転が低迷する環境の中で営業活動の強化により潤沢な貨物に恵まれたこと、また取扱貨物を高収益貨物へシフトしたことにより、売上高は前連結会計年度に比べ7.6%の増収の144億47百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ41.5%増益の9億80百万円となりました。



## その他部門

売上高  
**8,241** 百万円

その他部門は、化粧品製造販売、輸入牛肉・輸入加工食品の販売ならびに不動産賃貸等が主であります。化粧品製造販売の国内連結子会社の売上が減少したこと、不動産賃貸において東品川冷蔵庫売却に伴う倉庫の賃貸契約解消により売上が減少したこと及びカナダ産・米国産牛

肉の輸入販売を行う国内連結子会社の売上が牛肉需要の減退により減少したことにより、売上高は前連結会計年度に比べ6.1%の減収の82億41百万円、営業利益は前連結会計年度に比べ14.6%減益の8億48百万円となりました。



## 連結貸借対照表POINT

- 1 流動資産  
現金預金及び売掛債権が増加しております。
- 2 固定資産  
投資有価証券の時価評価によるものが含まれております。
- 3 流動負債  
一年以内に償還予定の社債を償還しております。
- 4 固定負債  
繰延税金負債が増加しております。

## 連結損益計算書POINT

- 1 売上高  
国内及び北米の加工食品部門が順調に推移したことにより増収となりました。
- 2 営業利益  
加工食品部門は、原材料費の上昇があったものの、販売数量の増加や製造コストの削減などにより増益となりましたが、魚介類部門は原料相場の急騰や不漁により取引高が減少し減益となりました。
- 3 特別利益  
当連結会計年度は、固定資産売却益として52億72百万円計上されております。なお前連結会計年度は、厚生年金基金代行部分返上益として69億34百万円計上されております。
- 4 特別損失  
前連結会計年度には、減損損失として14億21百万円計上されております。遊休資産のうち土地の一部について減損いたしました。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2006.3.31	前期 2005.3.31
<b>資産の部</b>		
1 流動資産	103,067	100,949
2 固定資産	120,238	119,242
有形固定資産	96,436	97,404
建物及び構築物	41,416	41,549
機械装置及び運搬具	20,487	20,184
土地	31,228	33,401
その他	3,304	2,267
無形固定資産	2,402	2,636
投資その他の資産	21,399	19,202
投資有価証券	18,721	15,686
その他	2,677	3,514
資産合計	223,306	220,191
<b>負債の部</b>		
3 流動負債	46,573	64,501
4 固定負債	29,194	26,227
負債合計	75,767	90,728
<b>少数株主持分</b>		
少数株主持分	9,972	9,014
<b>資本の部</b>		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	20,155	20,155
利益剰余金	98,366	86,159
為替換算調整勘定	△949	△3,592
其他有価証券評価差額金	4,073	1,683
自己株式	△3,049	△2,926
資本合計	137,566	120,449
負債、少数株主持分及び資本合計	223,306	220,191

## 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2005.4.1~2006.3.31	前期 2004.4.1~2005.3.31
① 売上高	325,679	307,561
売上原価	207,905	197,773
売上総利益	117,774	109,787
販売費及び一般管理費	97,838	89,542
② 営業利益	19,935	20,245
営業外収益	2,178	1,349
営業外費用	962	1,335
経常利益	21,151	20,259
③ 特別利益	5,694	8,359
④ 特別損失	2,050	5,538
税金等調整前当期純利益	24,795	23,080
法人税、住民税及び事業税	7,995	6,338
法人税等調整額	1,828	3,316
少数株主利益	1,157	1,458
当期純利益	13,813	11,967

## 連結剰余金計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2005.4.1~2006.3.31	前期 2004.4.1~2005.3.31
<b>資本剰余金の部</b>		
資本剰余金期首残高	20,155	20,155
資本剰余金期末残高	20,155	20,155
<b>利益剰余金の部</b>		
利益剰余金期首残高	86,159	75,482
利益剰余金増加高	13,813	11,967
当期純利益	13,813	11,967
利益剰余金減少高	1,606	1,290
配当金	1,536	1,229
取締役賞与	52	54
監査役賞与	5	6
連結子会社増加に伴う減少高	11	—
利益剰余金期末残高	98,366	86,159

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2005.4.1~2006.3.31	前期 2004.4.1~2005.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,865	17,108
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,238	△6,390
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,557	△6,740
現金及び現金同等物に係る換算差額	468	87
現金及び現金同等物の増加額	3,015	4,064
現金及び現金同等物の期首残高	29,809	25,744
新規連結による現金及び現金同等物の増加額	1	—
現金及び現金同等物の期末残高	32,826	29,809



## ■ 支店・営業所

- 札幌支店 (札幌支店、旭川営業所、函館営業所、帯広営業所)
- 東北支店 (八戸営業所、盛岡営業所、仙台営業所、秋田営業所、山形営業所、福島営業所)
- 東京支店 (東京営業所、千葉営業所、神奈川営業所、埼玉営業所、甲府営業所、栃木営業所、茨城営業所、群馬営業所)
- 信越支店 (新潟営業所、長野営業所)
- 静岡支店
- 名古屋支店 (名古屋支店、金沢営業所)
- 大阪支店 (大阪支店、中国営業所、四国営業所、沖縄営業所)
- 福岡支店

## ■ 冷蔵庫

- |            |            |            |
|------------|------------|------------|
| ● 札幌冷蔵庫    | ● 石狩冷蔵庫    | ● 大井埠頭冷蔵庫  |
| ● 平和島冷蔵庫   | ● 城南島冷蔵庫   | ● 東扇島第一冷蔵庫 |
| ● 東扇島第二冷蔵庫 | ● 東扇島第三冷蔵庫 | ● 名古屋冷蔵庫   |
| ● 神戸冷蔵庫    | ● 舞洲冷蔵庫    | ● 福岡冷蔵庫    |
| ● 佐賀冷蔵庫    |            |            |

## ■ 工場

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| ● 札幌工場 | ● 埼玉工場 | ● 相模工場 | ● 焼津工場 |
| ● 神戸工場 | ● 福岡工場 |        |        |

## ■ 主要グループ企業

### 【主要国内連結子会社】

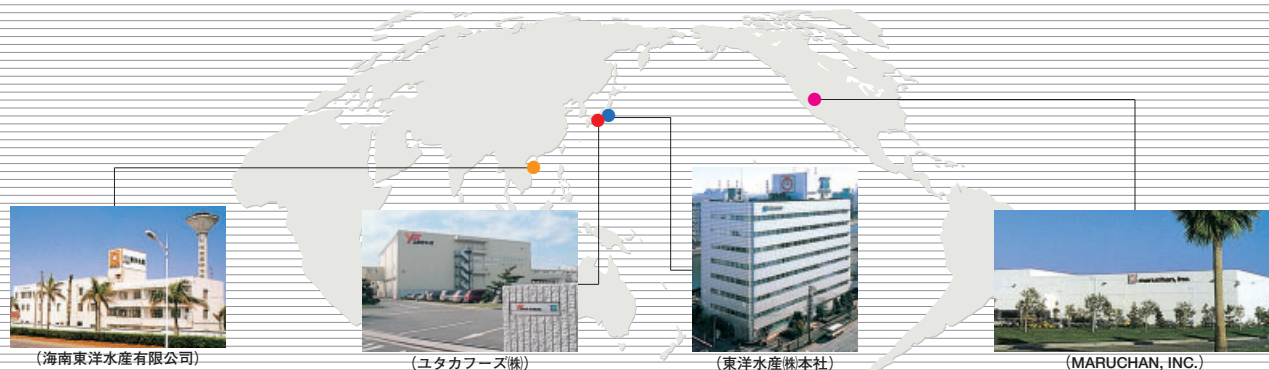
- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| ● 八戸東洋株式会社    | ● 三協フード工業株式会社   |
| ● 甲府東洋株式会社    | ● 伊万里東洋株式会社     |
| ● フクシマフーズ株式会社 | ● 株式会社フレッシュダイナー |
| ● 東洋冷凍株式会社    | ● 株式会社東京商社      |
| ● サンリク東洋株式会社  | ● 銚子東洋株式会社      |
| ● 株式会社酒悦      | ● ユタカフーズ株式会社    |
| ● 新東物産株式会社    | ● 田子製水株式会社      |
| ● 東部貿易株式会社    | ● 石狩東洋株式会社      |
| ● 築地東洋株式会社    | ● ミツワデイリー株式会社   |

### 【主要海外連結子会社】

- MARUCHAN, INC.
- MARUCHAN VIRGINIA, INC.
- MARUCHAN DE MEXICO, S.A. DE C.V.
- PAC-MARU, INC.
- SEAFREEZE LIMITED PARTNERSHIP

### 【主要非連結子会社他】

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ● ヤイズ新東株式会社   | ● 下田東水株式会社     |
| ● 三幸養魚株式会社    | ● 海南東洋水産有限公司   |
| ● 埼玉東洋株式会社    | ● 湛江東洋水産有限公司   |
| ● 湘南東洋株式会社    | ● 株式会社いらご研究所   |
| ● 東和エステート株式会社 | ● 仙波糖化工業株式会社 ※ |
| ● スルガ東洋株式会社   | ※ 持分法適用関連会社    |



(海南東洋水産有限公司)



(ユタカフーズ㈱)



(東洋水産㈱本社)



(MARUCHAN, INC.)



# 個別財務諸表

## 個別貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2006.3.31	前期 2005.3.31
<b>資産の部</b>		
流動資産	80,437	84,991
固定資産	91,011	92,967
有形固定資産	55,265	59,015
無形固定資産	2,132	2,398
投資その他の資産	33,613	31,554
資産合計	171,448	177,959
<b>負債の部</b>		
流動負債	52,357	69,512
固定負債	21,868	18,706
負債合計	74,225	88,219
<b>資本の部</b>		
資本金	18,969	18,969
資本剰余金	20,155	20,155
利益剰余金	56,251	50,976
其他有価証券評価差額金	3,845	1,559
自己株式	△1,999	△1,921
資本合計	97,223	89,740
負債・資本合計	171,448	177,959

### 個別決算POINT

- 1 特別利益**  
当期は固定資産売却益として51億31百万円計上されており、前期は厚生年金基金代行部分返上益として46億91百万円計上されています。  
なお、前期は厚生年金基金代行部分返上益として46億91百万円計上されています。
- 2 特別損失**  
前期は減損損失として19億90百万円計上されています。遊休資産のうち土地の一部について減損いたしました。
- 3 配当金**  
普通配当を15円から18円に増配し、さらに特別配当金2円を加え1株につき20円といたしました。

## 個別損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科目	当期 2005.4.1~2006.3.31	前期 2004.4.1~2005.3.31
売上高	218,558	214,124
売上原価	129,433	131,037
売上総利益	89,124	83,086
販売費及び一般管理費	81,031	75,096
営業利益	8,092	7,989
営業外収益	1,734	1,548
営業外費用	916	1,149
経常利益	8,910	8,388
<b>1 特別利益</b>	6,093	5,776
<b>2 特別損失</b>	2,713	4,802
税引前当期純利益	12,290	9,363
法人税、住民税及び事業税	3,146	1,957
法人税等調整額	2,191	2,208
当期純利益	6,952	5,197
前期繰越利益	2,057	2,430
当期末処分利益	9,010	7,628

## 利益処分

(単位：百万円)

科目	当期	前期
当期末処分利益	9,010	7,628
任意積立金取崩額	252	106
合計	9,262	7,734
利益処分類	7,128	5,677
<b>3 配当金</b>	2,184	1,639
取締役賞与金	46	34
監査役賞与金	5	4
任意積立金	4,892	4,000
次期繰越利益	2,134	2,057





## ■ 会社概要

創立 1953年3月25日  
 本社 〒108-8501  
 東京都港区港南二丁目13番40号  
 電話 (03) 3458-5111 (代表)

資本金 189億6,952万円

従業員数 1,531名 (男性1,063名 女性468名)

事業所数 工場6、冷蔵庫13、支店・営業所28

関係会社 国内関係会社31社  
 (うち、連結子会社19社、非連結子会社10社、関連会社1社、持分法適用会社1社)  
 海外関係会社9社  
 (うち、連結子会社5社、非連結子会社4社)

## ■ 役員 (2006年6月29日現在)

取締役会長	深川 清司	常勤監査役	北村 勝久
取締役社長	堤 殷	常勤監査役	南 守之
専務取締役	織田 睦彦	監査役	高良 明
常務取締役	井上 安雄	監査役	森 勇
常務取締役	成滝 勝郎		
取締役	久保 恭司		
取締役	目羅 甚一		
取締役	谷口 文夫		
取締役	佐藤 勝英		
取締役	山内 寛		
取締役	山下 透		
取締役	三浪 博行		
取締役	菅原 謙二		

情報満載の当社HPもご覧ください。

<http://www.maruchan.co.jp/>

東洋水産の企業サイトでは事業紹介や商品情報・IR情報を始め、最新ニュースがご覧いただける「東洋水産からのご案内」や「新製品ののご案内」などを掲載しています。

### マルちゃんマークの誕生

マルちゃんブランドの第1号商品は、1962年5月に発売された、即席袋麺「マルちゃんのハイラーメン」でした。

東洋水産では、1961年4月に「マロト印ラーメン味付け」を発売し、即席麺市場に参入しましたが、その後、事業の本格展開にあたり、お客様からお年寄りまで幅広い層のお客様に親しまれ愛されるブランドが必要になりました。

そこで、「食品メーカーとして、提供する商品で、お客様に、美味しさや楽しさを伝え、幸せをお届けしたい」といった願いを込め、愛らしい笑顔のマーク「マルちゃん」が、開発されました。

そして、即席袋麺の第2号商品「ハイラーメン」に、初めてマルちゃんマークがつけられました。

「ハイラーメン」は、それまでの麺に味付けをしたタイプの即席麺に対し、スープを小袋に入れて別添し、鍋で煮込んで調理をする従来にないタイプの商品でした。スープを別添にすることで味のバリエーションの幅を広げ、袋麺の新しい流れを作る商品としてヒットしました。

現在、マルちゃんは、「赤いきつね」・「緑のためき」を始めとする即席麺や生麺「焼そば3人前」などの加工食品類に、安心と信頼のマークとして使われています。

### マルちゃんマークの移りかわり





## ■ 株式の状況

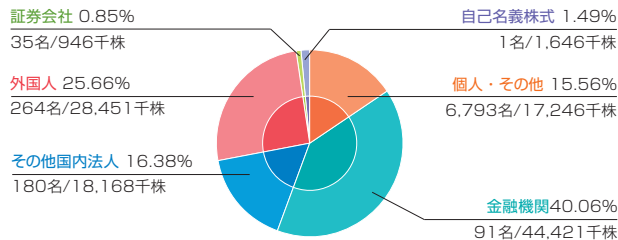
会社が発行する株式の総数…………… 427,000,000株  
 発行済株式の総数…………… 110,881,044株  
 株主数…………… 7,364名

## ■ 大株主の状況

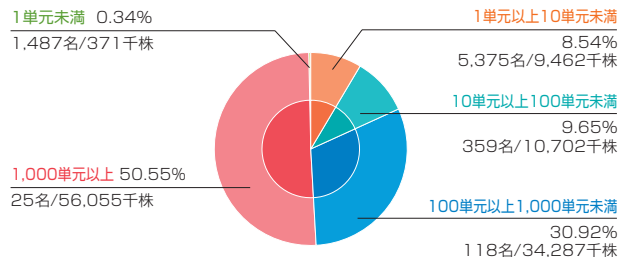
株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,321	8.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,129	5.70
田子製氷株式会社	6,021	5.60
株式会社三井住友銀行	2,674	2.49
あいおい損害保険株式会社	2,561	2.38
マルちゃん持株会(従業員持株会)	2,388	2.22
ルカ オブ ニューヨーク ジーンズ・ユム クライアント アカクツィー アイズ	2,327	2.16

(注) 議決権比率は小数点以下第2位未満を四捨五入して表示しております。

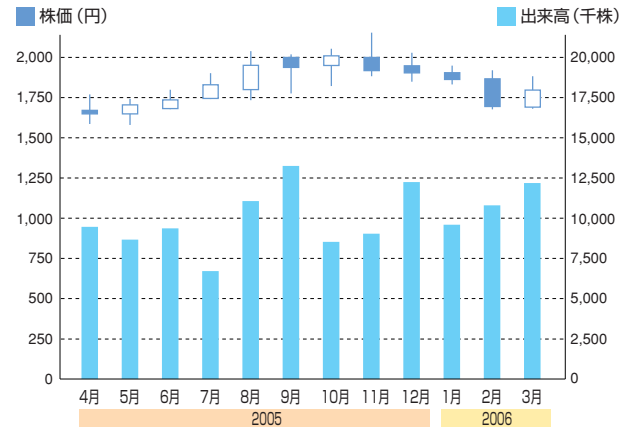
## ■ 所有者別株式分布状況



## ■ 所有株数別株式分布状況



## ■ 株価及び売買高の推移 (東京証券取引所)



## ■ 株主優待制度

当社では、株主の皆様にご当社製品を一層ご愛顧いただきたく、ご所有の株式数に応じて自社製品の詰め合わせを進呈する株主優待制度を導入しています。

今年につきましては、3月末現在、1,000株以上ご所有の株主様に対し、3,000円相当の自社製品を、3,000株以上ご所有の株主様に対し、5,000円相当の自社製品をそれぞれ6月に進呈させていただきます。



3,000円相当の2005年3月期の製品例

## ■株式事務手続きのご案内■

当社の株式事務を取扱っております中央三井信託銀行では、株主の皆様の住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定などの用紙のご請求を電話及びインターネットのホームページで24時間受付しておりますので、どうぞご利用ください。

### ■電話によるご請求

受付フリーダイヤル 0120-87-2031（操作の方法は、音声案内にしたがってください。）

### ■インターネットによるご請求

ホームページアドレス [http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)

※証券保管振替制度をご利用の方は、恐れ入りますが、お取引の証券会社へご相談ください。

## ■株主メモ■

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	期末配当は毎年3月31日 中間配当を行う場合は9月30日
公告方法	電子公告 ただし、電子公告できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 (アドレス) <a href="http://www.maruchan.co.jp/">http://www.maruchan.co.jp/</a>
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
同事務取扱所	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-78-2031（フリーダイヤル）
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
単元株式数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）

# マルちゃん雑学館 Vol.4

## 「赤いきつね」 (武田鉄矢さんと赤いきつね編)



1979年 戦車がこわくて篇



1981年 ジャングル篇



1987年 ピラミッド篇

1978年の発売以来、28年間一貫して赤いきつねのCMキャラクターは武田鉄矢さん。起用当時の武田さんは、フォークシンガーから俳優へと活動の場を広げている時期でした。

これまでに放映されたCMの作品数はゆうに100作品を超えています。一つの商品と一人のタレントが30年近い関係を持つのは、広く広告業界を見ても希有なことです。

武田さん曰く、『自分にとって赤いきつねは、“親友”』。赤いきつねの歴史は、武田さんの存在を抜きにしては語れません。

## 東洋水産株式会社



〒108-8501 東京都港区港南二丁目13番40号

TEL (03) 3458-5111 (代表)

ホームページ <http://www.maruchan.co.jp/>



高級パール配合率 100%再生紙を使用  
しています



地球環境に配慮した大豆油  
インキを使用しています